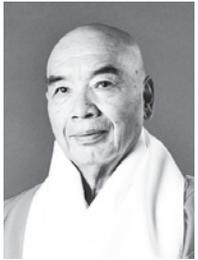


全国協議会 ニュース

2022年1月1日発行 第353号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和 (会長)
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

新年のご挨拶



全国骨髓バンク
推進連絡協議会
会長

仲田 順和

(真言宗総本山・
醍醐寺座主)

新年あけましておめでとうございます。
昨年「小児・AYA世代のがん患者さんの
妊孕性温存に公的助成の道筋がつくなど、
難治性血液疾患の患者さんにとって
大きな変化がありました。関係者の
皆さんの粘り強い活動の結果です。この
成果により、希望や幸福を感じた人が
多くいらっしゃったのは間違いあり

ません。人が人を思いやる気持ちは、
社会を正しい形を変えていきます。

ドナーの新規登録者数も一時はコ
ロナ禍の影響を受け、低迷しました。し
かし、最近はボランティアの皆さんの
献身的な活動により、徐々に回復して
きています。皆さんの活動により多く
の患者さんの命が救われている事実には
深く感謝をいたします。

患者さんやご家族が希望を持てる年
になりますように、また、その尊い活
動を支える方々が健康で幸福な一年を
過ごすことができますように、心より
お祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせ
ていただきます。



公益財団法人
日本骨髓バンク
理事長

小寺 良尚

新年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶
を申し上げます。

日本骨髓バンクは昨年12月に設立30
周年を迎えることができました。10月
に開催した記念大会は、新型コロナウイルス
感染が拡大している状況を鑑み
WEBでライブ配信しました。アーカイ
ブの視聴と合わせて例年より多くの方
にご覧いただくことができ、新しい時
代の到来を感じさせるものとなりました。

現在、コロナ禍で一時期減少してい
た移植件数も徐々に回復し、コロナ禍
以前に戻りつつあります。ドナー登録
者数は54万人に迫り、移植数は累計
で2万6千例を超えております。これ
らはドナーの皆様やボランティアの皆
様、関係機関の皆様の長年にわたるご
尽力の賜物であり、この場をお借りし

て厚く御礼申し上げます。

2022年は、昨年来取り組んできた
「コーディネート期間短縮ワーキング
グループ」で提起された施策を実行に
移し、一人でも多くの患者さんが適切
な時期に造血幹細胞移植を受けられる
よう進めて参ります。

また住所不明のドナー登録者への
SMS発信や、若年ドナー登録者の獲
得に向けたWEB広告の実施など、ド
ナープールの拡充に向けた施策にも引
き続き取り組みます。

更にドナー登録時におけるスワブに
よるHLA検査の導入や、末梢血幹細胞
採取における持続型G-CSF(PEG-G-
CSF)の応用など、ドナーの方の負担を軽
減する新しい技術開発についても、厚生
科学研究所、日本造血・免疫細胞療法
学会、造血幹細胞提供支援機関である日
本赤十字社と共に進めてゆきます。

新しい年も又、移植を必要とする患
者さんのため、共に頑張りましょう。

貴協議会の益々の発展と皆様のご健
勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶
といたします。



骨髓・さい帯血
バンク議員連盟
会長
衆議院議員

野田 聖子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年「小児・AYA世代のがん患者
等の妊孕性温存療法研究促進事業」が
開始されたことは、居住地によらず、
がん患者さんが助成を受けられる環境
が整備された大きな一歩でありまし
た。今後は、適切な時期に移植を受け
られるよう、企業等のドナー休暇制度
の導入によるドナー提供の支援など、
患者さんを取り巻く環境整備をすす
め、一人でも多くの患者さんを救うた
め、皆さまと力を合わせて取り組んで
まいります。

コロナ禍の影響により低迷していた
献血・ドナー登録者数も戻りつつあり
ます。これもひとえにボランティアの
皆さまの尊いお気持ちと活動の成果に
他なりません。心より感謝申し上げま
す。最後になりますが皆さまの今年一
年のご健康とご多幸をお祈り申し上げ
ます。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

🔍 骨髓バンク NOW

《MONTHLY JMDP(12月15日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2021年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,984	3,254	538,163	877,299
患者登録者数	196	216	1,714	63,138
移植例数	97 (28)	104 (22)	—	26,122 (1,425)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/1,029人、献血併行型集団登録会/2,121人、
集団登録会/49人、その他/55人

■11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,920人/20代 84,745人/30代 136,732人
40代 221,921人/50代 91,845人

■11月の20歳未満の登録者319人

■11月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計 数：1,378件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

新年のご挨拶



日本赤十字社
血液事業本部長

高橋 孝喜

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本赤十字社は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを使命として、幅広い分野で人道支援活動を行っております。血液事業本部は、造血幹細胞提供支援機関及び臍帯血供給事業者としてこの使命を果たすべく、関係者の皆様方と連携し、さまざまな取り組みを行っております。

造血幹細胞提供支援機関としては、厚生労働省と連携して骨髄データバンク事業に取り組むとともに、造血幹細胞移植に係る造血幹細胞提供関係事業者の業務支援を行っております。昨年は臍帯血移植の症例数も2万例を突破し、骨髄・末梢血幹細胞移植とともに、造血幹細胞移植への期待は年々高まっているところです。造血幹細胞移植医療に、よりよい環境を提供できるように効果的な機能改善を継続するとともに、造血幹細胞移植に関わる皆様への支援を継続して参ります。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、変化の著しい日々が続いておりますが、弊社は持続的な事業運営に努

め、一人でも多くの患者の移植医療に貢献できるよう、貴協議会をはじめ関係団体の皆様と一丸となり、事業の充実、発展に取り組んでいく所存です。これからは患者、担当医及び骨髄ドナーなど造血幹細胞提供に関わる皆様の想いに寄り添い、骨髄・末梢血幹細胞の提供支援、臍帯血の供給に尽力して参りますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴協議会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
理事長

田中 重勝

明けましておめでとうございます。

世界で猛威を振っている新型コロナウイルスも変異を繰り返し、新たな株の感染拡大が危惧されるころです。こうした中でも、全国各地では、すべての患者さんが救われることを願い、ボランティアの皆様のご努力により多くの方にドナー登録をしていただくことができました。感染防止対策に十分配慮をしつつ、対面で説明するド

ナー登録推進を継続していただいた皆様には、感謝を申し上げたいと思います。

こうしたことが礎となって、日本骨髄バンクでは30周年を迎えることとなり、多くの骨髄移植を進めることができたものと思います。

また、各地の皆様と全国骨髄バンク推進連絡協議会が要望を続けてきました妊孕性温存については、一般社団法人日本がん・生殖医療学会との連携のもと、昨年4月から国により助成が行われることとなりました。若い患者さんでは治療における妊孕性について説明を受け、将来に希望をもって厳しい治療に向かうことができるようになって参りました。

このように、白血病を取り巻く環境は、患者さんのQOL向上に向けた取組が進んでいるものの、いまだに適合ドナーが見つからないため、家族ぐるみでドナー登録をお願いされる姿があるのも現実です。

一方、全国各地で行われているドナー募集活動においては、様々な課題がありますが、ボランティアの皆様の柔軟な対応によって進められているところです。

全国協議会といたしましては、全国各地のボランティアの皆様のご意見をお聴きしながら、共に患者さんのための活動を推進して参りますので、引き続きのご支援ご協力をさらにお願ひ申し上げます。

移植医療対策推進室長に 木庭愛さん



造血幹細胞移植を担当する厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室長に2021年9月7日、木庭愛さんが就任されました。より良い移植医療

により一人でも多くの患者さんが一日も早く日常を取り戻せるようお力添えを頂きます。患者さんを支援する全国協議会への幅広いご協力を賜りますようお願いいたします。

都道府県骨髄バンク担当者会議開催

昨年11月26日(金)、都道府県骨髄バンク担当者会議(公益財団法人日本骨髄バンク主催)がオンラインで開催されました。骨髄バンク事業をより一層推進する為に年1回開催され、今回は45都道府県から骨髄バンク担当者が参加しました。会議の冒頭、厚生労働省移植医療対策推進室の木庭愛室長から「コロナ禍の混乱の中でも対応いただき、事業が着実に進んでいることに

感謝申し上げます。この会議は骨髄バンク関係者の連携の為に大切な機会である。コロナ禍でも関係者の情報交換の機会があれば事業が進んでいくので、是非とも各都道府県で骨髄バンク推進連絡協議会の設置をお願いしたい」との挨拶がありました。日本骨髄バンクからは「①骨髄バンクの現状と課題：ドナー登録数は上半期で前年の48%増、移植例数は同15%増。新規登録

者は18~22歳がボリュームゾーンとなっており、若年層の獲得が進んでいる。登録者では47歳がボリュームゾーンであるので若年層への取り組みを一層強化することが必要。コーディネートの中央値は130日(患者登録から移植)。コーディネート終了のドナー側の理由で健康以外では、都合がつかず40%、連絡取れず30%であり、課題となっている。企業へのドナー休暇制度導入依頼やSMSでの連絡等の対応を行っている。②骨髄バンク推進連絡

協議会の設置について：現在34道府県で設置済。設置している自治体ではドナー登録者数が増えている。課題と問題点の共有が重要となる。③若年層ドナー登録の推進について：コロナ禍により教育機関での登録会が激減した。教育機関では毎年学生が入れ替わるので、同じ場所でも登録数が落ちない。登録会の開催実施は、2020年度では教育機関全体の4%であり推進していく余地がある。新規会場の開拓をお願いしたい。④語りべ講演会開催等

について：同世代の語りべの話は反響がある。WEB開催も可能なので活用してほしい。⑤ドナー登録説明員の募集養成について：全国に1,118人の登録説明員がいるが都道府県での偏りがある。不足していると思われる場合は、各自治体での募集・養成を検討してほしい。⑥ドナー休暇・公欠制度について：提供には10日程度休みが必要となる。自治体においては商工会議所など『団体』への働きかけをお願いしたい。』との報告・要請がありました。

プルデンシャル生命保険(株) 港南支社様での講演



浜松町駅前(東京都港区)にあるプルデンシャル生命保険株式会社港南支社様から、12月2日(木)の朝礼で「骨髄バンクや協議会の活動について」講演いただきたいとの依頼があり、柴山

事務局長と共に赴き、お話をしてきました。

同社本社からは、2006年から毎年箱根駅伝で応援に参加された社員さんの人数に応じて全国協議会にご寄付を頂いています。港南支社は、高野大陸支社長始め30数名の社員が在籍されていますが、最近ではコロナのため在宅ワークされている社員が多く、全員出社されるのは久しぶりとのことでした。また、たまたま同日は朝から営業統括本部長の間原寛取締役執行役員専務がお見えになっていて、お忙しい

中、講演を一緒に聞いてくださり、大変感謝しております。朝礼は、支社長からの挨拶と連絡事項から始まりましたが、緊張感あふれる中、和やかな空気も流れていました。同支社では受付に全国協議会の募金箱を設置して下さり、また「キモチと。」(ブックオフコーポレーション株式会社の買取寄付サービス)用の本を社員から集めておられました。これらの支援金は、このとりマリーン基金へ寄付を考えられているとのことでしたので、同基金について詳しくお話ししました。今後もご支援を頂けると幸いです。

(副理事長 梅田正造)

基金給付を受けた方からのメッセージ

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

お世話になっております。昨年11月上旬に退院することができました。今現在、GVHDの影響で、体調が優れない日もあったり、皮膚の炎症ができていますが、とても穏やかに日々を過ごせています。仕事を本格的に始められるようになるまでにはまだ時間がかかりそうですが、少しずつ体力が戻ってきていることを実感し、うれしく思っています。また無事に社会復帰できるその日まで、ご支援いただけたら幸いです。

(中部地方在住 患者さんご本人)

先日は助成金を頂きお礼を申し上げます。娘はもうすぐ23歳になります。大学を卒業してこれから…という時に再々発となりました。コロナウイルス

の影響もあり主人の仕事も自営業のため収入も定まらず、私もパート職の時間を短くしての病院通いです。ご寄付を頂いた方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。どこかで必ず恩返しをしたいと思っております。ありがとうございました。

(前出の患者さんのお母様)

このとりマリーン基金

このとりマリーン基金で給付を受けることができ大変感謝しております。今後も若いがん患者がこのような支援を受けられたら不安を払拭して治療に臨むことができると思います。本当にありがとうございました。

(関東地方在住 患者さんのお母様)

治療費だけでも高額な支払いが大変な中、未来への希望を捨てずに生きて欲しいと願う親心にこのような助成金がありとてもありがたく、心救われま

した。これからもこのような支援が広がることを心から願います。

(関東地方在住 患者さんのお母様)

ご自宅に眠る品物も支援に ブックオフの 買取寄付サービス

本やDVDなどを送ってクラウドファンディング!「キモチと。」を通じて私たちの活動をご支援下さい。ブックオフオンラインのサイトから簡単にお申込みいただけ、結果もご自身で確認いただけます。品物は配送ドライバーさんが集荷に来てくださいます。ブックオフのご利用が初めての方は会員登録をお願いいたします。ご支援いただいた方にはお礼のメールをお届けします。年末の整理をしそびれた皆さま!この機会に是非ご検討ください。





群馬

群馬県骨髄ドナー登録推進会議を設置

昨年11月1日(月)コロナ禍の中Zoomにて第1回となる群馬県骨髄ドナー登録推進会議(推進会議)が開催されました。委員として日本骨髄バンク広報渉外部鈴木慶太氏、群馬県赤十字血液センター事業部長金井準一氏、群馬大学医学部附属病院血液内科齋藤貴之氏、群馬県済生会前橋病院血液内科高田覚氏、群馬県健康福祉部薬務課薬事・血液係長関博之氏、主事青柳佳祐氏と群馬県骨髄バンク推進連絡協議会(群馬の会)代表細野好司が参加しました。

推進会議設置の趣旨は「骨髄バンクに関する正しい知識の普及啓発」「ドナー登録推進」「骨髄提供しやすい環境整備」です。ドナー登録の推進を図るには日本骨髄バンクや日赤のみなら

ず行政やボランティアなど、さまざまな関係者が協力し、その地域に必要な対策を取っていくことが不可欠で、それらの話し合いをする場として「骨髄バンク推進連絡協議会」といった会議体を設置するよう厚労省から各都道府県に対し依頼がなされています。設置済みの道府県では関係者の相互理解が図られ、ドナー登録会の円滑な開催がされており、その結果新規ドナー登録者数も増加傾向にあるとのこと。

推進会議は年に1回程度構成員が集まり、登録会などの実施・県事業実施の報告やボランティア団体の活動状況報告、部会(後述)活動の報告をとおり骨髄バンクの現状・課題と対策の共有、今後の施策の検討を行い、骨髄バンク事業に関する多様な視点から意見交換を行います。

また、2つの部会を設置し教育機関や学生ボランティアなどと連携して事業を展開します。

「啓発活動部会」では群馬の会が県内のイベント参加、シンポジウム開催などをおして啓発活動を行います。

また、群馬の会と薬務課が中心となり若年層に向けた啓発活動を企画・実施をしています。具体的には各学校のボランティアサークルと連携、ユースアンバサダーに活躍してもらう、若年層向けの動画作成や啓発事業への参加の呼びかけ、教育機関での語りべ講演会等を企画しています。

「ドナー登録部会」では献血併行型登録会のさらなる充実のため、若年層が集まる会場の開拓や説明員連絡会・新規説明員養成講座を行っていきます。具体的には、ベテラン説明員の知識や経験が学べる「説明員スキルアップ講座」、学生ボランティア団体などと協力し学校内で「説明員養成講座」を開催、校内の登録会時に活動する説明員を養成する「若年層説明員の新規養成」を行っていきます。

議長である齋藤先生からは、「第一歩として群馬大学で登録会を開催する。学生に説明用の動画を作ってもらおうのはいかがでしょうか」との提案を頂きました。

(群馬県骨髄バンク推進連絡協議会 会長 細野好司)

ゴールドジム スクール発表会

2021年11月27日(土)・28日(日)の2日間で新宿三角広場にて「ゴールドジムスクール発表会2021」を開催させていただきました。

同イベントは日頃ゴールドジムでスクールを開催している皆様の発表会というイベントになり、ご参加、ご観覧いただく皆様に募金のご協力を頂き、寄付させていただくというチャリティーイベントとなります。

今回の参加は42団体、331名と多くの方にご出演いただきました。

このような社会情勢でありますので、感染症対策にも注力し、会場内はマスクの着用は必須、演技中もマスクを着用していただく等、皆様にご協力いただく中でのイベント開催となりましたが、日頃の練習の成果を披露する機会をご提供でき、開催が出来てよかったですと感じております。

参加された皆様からも発表会という場が全く無くなっており、このような

場を設けさせていただき事に対して感謝のお言葉を多数頂きました。

今後も皆様へ日頃の練習の成果を発表する場を設けさせていただき、チャリティーイベントを開催させていただきことで社会貢献をして参ります。(ゴールドジム銀座東京店 米持優一)

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】

小野義明=岐阜県

ゴールドジム(株式会社THINK フィットネス)様のご支援について

空手家でもあり、K-1ファイターでもあった故アンディ・フグ氏は、2000年に急性骨髄性白血病で35歳という若さでこの世を去りました。長い交流があった手塚栄司社長はアンディ氏亡き後、「同じ白血病で苦しんでいる方々のために私たちにできることはないか?」との思いから、2005年3月よりスクール発表会をチャリティーイベントとして開催し、ご支援くださっています。

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 11月21日~12月20日(敬称略)

●一般	匿名 現金 3,000円	株式会社 マルト商事	現金 68,232円
早瀬 昭一郎 現金 6,000円	柴山 洋久 切手 3,970円	株式会社 久美堂	現金 2,095円
石川 清 現金 50,000円	●佐藤さち子患者支援基金	シー・エイチ・シーシステム株式会社	現金 26,112円
山崎 裕一 現金 30,000円	八谷 時子 現金 10,000円	協議会募金箱	現金 11,076円
塩谷 泰人 現金 1,000円	●志村大輔患者支援基金	●つながる募金	現金 15,700円
「ガロ」のお客様	児玉 知之 現金 5,000円	●キモチと。	現金 11,583円
	コダマ スミオ 現金 2,927円		
齋藤 生吾 現金 50,000円	●こうのとりのマリン基金		
藤波 敬子 現金 10,000円	ブルデンシャル生命保険株式会社		
飛田 行康 現金 10,000円	港南支社 現金 10,498円		
豊田 さやか 現金 10,000円	●募金箱		
近藤 加奈子 現金 3,000円	株式会社 クスリのアオキ		
匿名 現金 3,000円	現金 2,769,563円		

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会